

## 公共事業再評価調書

事業名	その他町道堤川目線 矢巾SIC工区	所管省庁 (補助事業)	国土交通省 (道路事業)	市町村	矢巾町
路線名等	その他町道堤川目線 矢巾スマートインターチェンジ	地区名	煙山、広宮沢	担当部課名	道路都市課
事業概要	<p>(1) 事業目的 町道堤川目線は、矢巾スマートインターチェンジに直結する重要なアクセス道路である。本路線は、矢巾SICから岩手医科大学附属病院岩手県高度救命救急センターへのアクセス及び物流拠点である岩手流通センターへのアクセス道路であり、居住者・来訪者の利便性向上、物流の効率化による地域産業の活性化、救急医療機関へのアクセス性向上を目的とし、延長約1.7kmを整備するものである。</p> <p>(2) 事業内容 【ランプ部】延長L=0.16km 幅員6.5(9.5)m    【現道拡幅部】延長L=1.54km 幅員5.5(9.0)m 【計画交通量】2,119台/日</p> <p>(3) 整備目標等 矢巾SICについては、平成30年3月供用開始予定で進め、供用開始後についても利用者の増進に努める。町道堤川目線は、車両の通行に支障きたさないよう交差点部を先行して整備を進め、平成31年度の完成を目指すものとする。</p> <p>(4) 事業計画期間及び総事業費 ○事業計画期間   ：   平成25年度   ～   平成31年度     ( 用地着手年度   ： 平成26年度   、 工事着手年度   ： 平成27年度 ) ○総事業費       ：   1,210 百万円</p>				
事業の進捗状況等	<p>(1) 事業の進捗状況 ア 整備効果の発現状況 ・平成25年度にスマートインターチェンジの連結許可をいただき、矢巾SIC工区については平成27年度に民有地すべての用地買収が完了している。町道堤川目線については、平成28年度から順次進めている。 ・工事については、矢巾SIC工区を平成27年度から着手しているが、現時点では未供用となっており整備効果の発現はない。</p> <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し ○中項目評価は、事業の進捗は順調であり、計画どおり確実な竣工が見込まれるため「a」とした。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">中項目評価 (a) . b . c</div> <p>(2) 事業計画の変更の有無及び内容 ○現時点での変更はないものの、今後、車両制限の変更及びSIC運営の際の監視体制を集約（上下線1箇所）する予定としていることから「b」とした。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">中項目評価 a . (b) . c</div>				
		※中項目が「a」と「b」であることから、大項目評価を「A」とした。	評 価	AA . (A) . BB . B . C	

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・我が国の高速道路における平均インターチェンジ間隔は、欧米諸国に比べ約2倍と長く、また、高速道路が通過するにもかかわらずICが設置されていないため、通過するのみとなっている市町村も存在することから、効率的にICを追加し利便増進を図っている。また、災害時などの乗降による避難にも役立つ目的を兼ね備えている。

○全国の整備状況 (H28.12現在)

・開通箇所 87箇所      ・事業中 71箇所

イ 本市町村及び県内の状況

・県内では奥州市・滝沢市・平泉町及び矢巾町でスマートインターチェンジが事業中である。  
 ・盛岡広域都市圏道路網基本計画 (H26.7策定) の主要事業に位置付けられている。

ウ 施工地域における状況

・当該道路の整備促進については、岩手医科大学附属病院岩手県高度救命救急センターへのアクセスや、物流の効率化の観点から関係機関から強い期待が寄せられている。

○中項目評価は、全国または本件において、政策や事業のあり方についての議論や見直しの大きな変化が見られないことから「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標		配点	事業着手時 評点 (A) (H25)	今回再評価時 評点 (B) (H28)	増減 (B)-(A)	備考
必要性	(1) 車道等幅員	5		5 (現況5.5m)	—	
	(2) 曲線半径	5		0 (現況800m)	—	
	(3) 縦断勾配	5		0 (現況1.07%)	—	
	(4) 歩道設置の必要性	3		3 (通学路)	—	
	(5) 混雑度	2		0 (なし)	—	
	(6) 定時性	2		0 (なし)	—	
	(7) 事故率	3		1 (履歴有)	—	
	(8) 過疎地域等の振興	5		0 (該当外)	—	
重要性	(1) ネットワークの位置付け	15	事業着手時は評価を行っていない。	15 (高規格道路)	—	
	(2) 産業振興、生活支援	15		15 (4項目該当)	—	※1
緊急性	(1) 関連事業の有無	5		5 (あり)	—	※2
	(2) 冠水区域、主要渋滞ポイント、老朽橋、交通不能区間、通行危険箇所等	5		0 (なし)	—	
	(3) 10km以内に迂回道路	5		5 (あり)	—	
効率性	(1) 費用便益費 (B/C)	20		18 (4.2)	—	
熟度	(1) 用地取得の進捗状況	3		2 (約55%)	—	用地費ベース
	(2) 地元要望	2		2 (あり)	—	
計		100		71	—	

※1：物流支援、救急医療アクセス向上、公共施設アクセス向上、通園通学路の安全性向上

※2：岩手医科大学総合移転整備事業、矢巾SIC周辺道路整備事業

○ 費用便益分析

費用便益分析手法：費用効果分析マニュアル(平成20年11月)

(単位：百万円)

区 分		事業着手時 (基準年：H25年)	再評価時 (基準年：H28年)
費用項目	建設費		1,092
	維持費		580
	総費用(C)		1,672
便益項目	便益	時間短縮便益	5,311
		走行経費減少便益	1,286
		事故減少便益	377
	総便益(B)		6,974
費用便益比(B/C)			4.2

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項  
特になし

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・岩手医科大学総合移転整備事業
- ・矢巾SIC周辺道路整備事業

○事業に関する指標から見た評価については、各評価指標の合計が60点以上80点未満であることから「b」とした。

中項目評価	a	・	(b)	・	c
-------	---	---	-----	---	---

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・本事業計画区域は、岩手県自然環境保全指針による環境保全区分は「E」で「自然環境が強度に改変され、あるいはほとんど欠くことにより、概ね人為的環境となっている地域」となっている。
- ・特定植物群落や重要湿地の指定箇所はなく、県レッドデータブックに掲載されている注視すべき種も確認されていない。
- ・埋蔵文化財については、事前に試掘調査を行っているが、現状保存の必要な遺跡等は確認されていない。

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・本事業は既存町道の拡幅であり、そのほとんどが基盤整備が完了している農地であることから、新たに自然環境に手を加えることは少ない。
- ・工事においてはCO2排出量の少ない機器の使用を推奨するなど、環境負荷の低減に配慮を行っている。
- ・国土交通省復興道路から発生した残土を盛土材として有効利用することにより、環境負荷の低減に配慮を行っている。

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿った対応をしていることから「b」とした。

中項目評価	a	・	(b)	・	c
-------	---	---	-----	---	---

※中項目評価が「a」、「b」、「b」であることから、大項目評価を「A」判定とした。

評 価	AA	・	(A)	・	B	・	C
-----	----	---	-----	---	---	---	---

社  
会  
経  
済  
情  
勢  
等  
の  
変  
化

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

- ・路体盛土として国土交通省復興道路の残土を再利用しコスト削減を図る。
- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト削減に努めながら推進する。

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

- ・計画ルートについては、連結許可をいただいているルートであり、接続する町道についても現計画（既存道路拡幅）が適当であると判断している。
- ・橋梁形式は、比較検討結果をもとに選定をしている。

②今後における代替案立案の可能性

- ・矢巾SIC接続位置が決まっていることから、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

対応方針案	<p>事業継続</p> <p>要検討</p> <p>中止</p> <p>(事業継続、見直し継続、休止、中止)</p>
-------	--

着手年度	完了予定年度	事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1) 事業進捗状況			(2) 社会経済情勢			参考		
				進捗状況	計画変更		社会経済	社会経済	自然環境	評点	B/C	
H25	H31	1,210	20	A	a	b	A	a	a	b	71	4.2

○総合評価に係るコメント

①再評価の総括

- ・「事業の進捗状況等」については、将来的な事業計画の変更はあるものの、矢巾SIC供用が平成30年3月に予定されており、工事の遅延がなく、今後も計画に沿って事業を進めることが見込める。
- ・町道堤川目線においては、用地買収が順調に進められていることと、用地交渉段階で事業に反対する地権者が見受けられないことから、今後も計画に沿って事業を進めることが見込める。
- ・「社会経済情勢等の変化」については、事業に関する社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に関して特に大きな変化が見られない。
- ・以上のことから「事業継続」と評価したものである。

②特記事項

- 評価基準年以降の総費用、総便益により算出した残事業B/Cは4.7である。

総合評価